



風加訓卷之一



冥加訓序

書經洪範乃篇母。五福六極と云と有。
五福ハ五つれ吉事。六極ハ六つれ凶事也。
天道よりハ吉乃五福びり。おんをた給
ひ多。凶乃六極ハ。今日我々。五福了
うせく。いりる。いりる。いりる。いりる也。
影の形よ。あつらふ。あつらふ。あつらふ。あつらふ也。
其身正しく。其身正しく。其身正しく。其身正しく。

生方引老一
邪よしまをいひ。邪くさ邪よしまなる。はくくうせい。つよく
ひびき。かたぐうをばくくくひひき。アウと
らぐ。乾く事か。其身ハひきたり。乾い
天道なる。折うろハま続たり。ひびきたる天
道なり。人作あんぞうをもちく。毛頭もうとうくく乾
そのみあはぬ。裁さそのの培かかきくものハ
覆くろがらとつと。是なり。草本くさぽん乃根ね不ふよく
土つちぬく。直ちよくくく。まあるものハ。晝ちゆう夜や

天地の生氣せいきなり。雨露うろのめぐり加かハ
アそ。枝えだのひ葉ははるも。根ね土つちにたぐりふ
まありはひ。天地乃生氣せいきなり。後ご雨露うろ
はめぐり。通とよひばりて。覆くろがらアそ。根ねくも也。
孔子の人乃直ちよくなり。其直ちよくを
ま続まぞくらひゆぐりく。忽たちちきををれ。死しともか
答こたの事ことなる。一日いちにちも生なまて。枯かくといひ。
幸さいよふして。まぬくしるや。つものなるかと

わまらば。苗分^{なえ}分^{ぶん}すて。括^{くわく}る^るもつて。あふ
 かりもの也。進^{しん}付^ふちをん^ん死^しとぶ。賞^{しょう}ハ
 元^{げん}本^{ほん}天^{てん}れ加^か護^ごして。うま^まる^る金^{きん}給^{じゆ}ふ。罰^{ばつ}ハ
 我^{われ}ら好^{こう}む。天^{てん}よえん^{えん}ふか^かさ^さ好^{こう}む。現^{げん}よ
 目^めよん^んは^はん^んと。自^じ然^{ぜん}と^と中^{ちゆう}に^に打^{うち}よ^よあ^あら^らかり。
 是^{こゝ}に^に冥^{めい}加^かと^と書^{しよ}経^{けい}よ^よ是^{こゝ}と^と陰^{いん}陽^{やう}と
 つよ^{つよ}の^のあ^あと^とよ^よく^くし^しら^らる^るふ^ふ天^{てん}命^{めい}と^と知^ち
 とも^{とも}の^のぶ^ぶ。毛^{もう}頼^{らい}う^うて^てふ^ふる^るに^にあ^あら^らせ^せた。

元^{げん}夫^ぶハ^ハ人^{にん}の^の目^めを^をて^て見^み。耳^{みみ}少^{すく}く^くま^まら^らぬ^ぬ。迷^{まよ}
 う^うみ^みく^く。冥^{めい}加^かよ^よう^うま^まら^らる^る。冥^{めい}加^かと^と書^{しよ}経^{けい}よ^よ是^{こゝ}と^と陰^{いん}陽^{やう}と
 加^かよ^よう^うむ^むく^く事^じづ^づら^らる^る。あ^あと^と事^じ也^や。人^{にん}と^と善^{ぜん}ハ
 かり^{かり}て^てよ^よく^く。悪^{あく}ハ^ハあ^あり^りて^てあ^あま^まら^らる^る。事^じと^と
 知^ちら^らる^るに^にそ^その^のい^いま^まけ^けま^また^た。生^{せい}質^{しつ}乃^の氣^きら^ら也^や。
 う^うま^まら^らる^るよ^よ終^{しゆう}り^り。飲^{いん}食^{しき}色^{しき}の^のこ^こら^られ^れ欲^{よく}し^し。
 む^むと^とい^いふ^ふ。あ^あや^やま^まら^らる^る事^じ也^や。其^{その}に^に示^しべ^べと
 する^{する}。甲^い逆^{ぎやく}め^めして^{して}知^ちら^らる^る。冥^{めい}加^かの^の訓^{くん}を

いんくちう

三

立事記との也。上王公より下庶人より
いづれもいづれも眞加よりなり。人作して一ツ
を。ゆくさくふあはれ。大事事として。字
べき後也。

享保九歳仲冬上旬豊後岡岡佳輔仁
堂關一樂翁八十一歳記之

眞加訓卷之一

一五福の第一壽命。これいひのられまがまはれり。
第二富。是は天祿のそかりて。不飢不寒財
用乃そかりかきまはれり。第三康寧。これ
五事。安穩とて。災難憂苦のなれをいふ。第
四徳好徳。これいひ道徳とて。義理をわ
かふをいふ。第五考終命。これいひ天より受得
る。眞加なりとやうを。いひゆるむるまはれり。
この五つおほい。いづれもいづれも福といひ。天
よりいひ。肝心脾肺腎の五臓。仁義禮智信乃。

の康寧やすみ也。うびくゆく疾やく憂うれの極ごくをうくる事
 あり。是は何をぞら。氣きの毒どく千万まんべんをうくるもの
 ども。うづもくうかると事ことるれば。天てんをも人ひとをも
 うびべまやういなり。第四だいよ悪あく。是は悠ゆう好こう徳とくの
 反はんかり。學がく問もんをまじい。道どう徳とくをいみ。仁に義ぎを
 辱おとしし。賢けんと福ふくを。佞ねいをあひ。剛こう惡あく公こうを
 身みをあ亡なし。家けをあしなし。是こも冥めい加かよ。そ
 りりある徳とくを。好このむ。ゆくあり。これとつづぬる。
 惡あくの極ごくとくくる也。第五だいご弱じやく。是は考こう終しゆう命めいの
 反はんかり。氣き体たい柔じゆう弱じやくして器き量りやうなく。道どう徳とく仁に

義ぎ也。終しゆう事じは急きゆうあぐ。はるあ行かうことあひん。
 氣き隨ずい墮だ落らくめして。冥めい加かの天命てんめいとげくと事こと
 あり。事ことをあむむもくもはげれあううる也。大だい事じ乃なり
 福ふくを。さづりながる。天道てんたうは冥めい加かよりひれたる。
 極ごくありあつといひ。是ぜい非ひもあつた義ぎ也。氣きのゆが
 ひといひ。天てんの答こためあつど。うづ身みはゆがひゆ
 かり。ひげたの高たか下げい。天てんの私ひそよあつど。打うち
 の強きやう弱じやくより也。かよくものををらうは。
 ゆがやくあゆかり。あう終しゆうむ。天てんよと人ひとも
 答こたはたし。んれ我われうと事こと也。

一福の極よ愛せむは。何事ぞとねんば。欲
 食色の三つと。貪瞋痴の三つ也。その外に。
 數くあれども。この三つれよのうらま事なり。
 飲つてのつゆ也。お湯茶ののちも。湯茶
 よおがくものいまれなり。酒の害よなる事。
 けりておちなり。肺金を多むらう。臟腑を
 らくもい。筋骨とゆるり。正氣をえんごし。損
 のこあて益なり。それのこちだ。けいんあてん
 多くあふ。天禄の口と。ちろくして求ふゆ
 らもどけ貪よ成く。用をうご。人の物を

うと取。幼もなきが。信をうじちん。人の
 をうけ。あまらうと。醉狂して。妻子とあひ
 せり。他人と争闘ぬらぶ。真加のつとあ
 事也。病氣短命これなり。おち也。合をう
 は。哈物なり。お飯汁餅麵類と。合をれ
 ども。終よおちるものいまれなり。魚鳥
 肉食の害なり。なる事これなり。厚
 味なる物なれば。おちなり。おちなり。おち
 して。過る事やと。脾胃熱をうりて
 咽うら。油氣つらうして。濕熱生じ。瘡を

虫生と。これより瘰癧中氣の疔也。女色
病氣短命の本とわらふ也。色といふは。女色
男色よわらうと事なり。尤本妻の交へ
かぶると事なれども。是ハ常也と珍しくね
ゆ。内にてかむるものもほまわらう。色よれ
妾や腰えはくひぬぬけ。あまうと人思若
衆とるがう。晝夜の不養生。うけぬつこ
ては。私酒厚味をたもめ。陽事をたせし。
真陰をたつや。冥加一人。餘計とせぬ
壽命と。膏の内よ仕舞ふる。愚痴のつら

かり。其期よのぞんで。六味丸八味丸。四花
患門乃。冬も用ぬをば。死亡ぬつと。父母
のたがひ。妻子のつと。言語よのうと。
命かすのう人のたぐさみらるふ。死く何乃
益あつや。冥加乃ほとらるもの也。貪欲とよ
は。じとらう欲とつと也。欲とつとものも。人
情乃すん。是も事なり。飢多。食と欲
し。渴して水を飲。寒き時衣と飲。は
あつと。まきたらふ。かよりねらう。衣食後
し。愛を好む。よれ人より。あつと。

かく。金銀等も。有るも。や。何んじき。かり
 求む。是事。を。忘る。は。わ。の。分。と。わ。く。事。を
 く。人。の。物。と。し。さ。かり。取。わ。ら。い。剥。わ。ら。い
 殺。て。も。取。中。に。た。る。事。也。是。大。に。冥。加。の
 疵。の。ほ。く。也。瞋。恚。と。い。ふ。は。心。の。腹。と。い。ふ
 事。也。是。も。氣。を。奪。て。は。色。を。あ。ら。せ。ら。る
 べ。し。と。い。ふ。心。を。奪。て。は。事。を。あ。ら。せ。ら。る。は。腹
 を。奪。て。は。心。を。奪。て。命。を。奪。て。命。の。ろ。ろ。ろ。ろ
 と。い。ふ。と。い。ふ。胸。を。あ。ら。せ。ら。る。は。心。の。短
 と。い。ふ。壽命。の。損。と。い。ふ。事。也。短。氣。と。い。ふ。は。短

命。の。相。かり。大。に。害。と。い。ふ。事。也。何。事。も
 いら。ら。う。と。い。ふ。事。也。冥。加。の。ほ。く。事
 かり。病。と。い。ふ。愚。癡。の。事。也。愚。鈍。め。て。智
 恵。の。あ。ら。せ。ら。る。物。の。善。悪。是。非。と。分。別
 と。い。ふ。事。也。と。い。ふ。人。是。も。非。の。中。に。と。い
 非。も。是。の。中。に。と。い。ふ。一。圓。埒。あ。ら。ざ。か。たり
 愚。智。一。種。の。事。也。ま。ま。と。い。ふ。可。也。邪。智。は
 多。し。つ。あ。ら。う。と。い。ふ。我。悟。り。て。自。と。是
 と。い。ふ。人。は。是。は。非。と。い。ふ。人。は。非。と。い。ふ
 あり。と。い。ふ。非。と。是。と。い。ふ。是。を。非。と。い。ふ。理

謀めしめて。きまぐりの欲をこころふ。悪んあるも。
 又をこころし。君をたふさるも。此愚智を勝し。
 多。天罰と冥罰と。くろくまぬもの。すくまぬ也。
 無理非道なるものや。ねまらう。まよひのは。
 けの身のおろろ事と。ぬりぬりの也。誰か
 ぞよ。飲食色乃三欲。まばらまばら。けの
 一生子孫もす。ね。冥加のは。こころる事と。ん
 ぐて。なまらう。くろくまぬもの。三毒の
 きた。けの身の一生子孫もす。の。冥加のは。こ
 けり事を。せしむ。出して。やめらう。くろくまぬ也。

一壽命と五福の中。第一とく多し。四天下
 を。得た。い。いと。短命。子孫断絶して。何の
 益うあるや。仁君乃冥加と。大事にたもして。
 天道より。多い。給い。けり。濟方。の。百廿歳。或い
 百歳。八九十歳。生さ。ぬ。子孫も。二十代。世代。
 四百年。五百年。あ。ら。い。の。六百年。七百年。と
 ぬ。の。ら。給。ぬ。不仁。して。冥加。より。多い。給。ぬ。
 濟方。の。や。ら。く。五十歳。三十歳。廿歳。十歳。生
 きた。い。子孫も。一代。二代。と。や。ら。い。い。と。こ
 けり。事。の。ま。ら。う。方。も。同。く。事。也。上。代。の。格。

別中古の来い。百年と上壽とん。八十と中壽
 とん。六十を下壽とす。是皆悠好徳の。天乃
 授とよく福りて。壽命と得るものなり。又
 長命といふ。生てけしきものあり。五体不
 具ならり。悪念をて。人乃害よならり。うきみ。ふ
 くまれ。死しころり。劣ならあり。道德仁義
 を。まじひこのまらゆ。壽命ハ生れ得られん。
 天罰人罰を得て。あきらむるなり也。善則
 得る不善則失之といふこれなり。まじひを
 わのゆるりあると事也

一富と五福の第二とん。多しとい圓天下と得るん
 ばとて。乱逆しあひ。世間静謐をん。火雖水災
 大風大旱多ゆ。凶年にあひ。飢饉疫癘を
 して。安福をいぬ。富有といひて。是皆分
 たり。奢長とるゆ。天地位をん。萬物育せざら
 ば。悠好徳乃冥加よ。うきあゆりあり。惣
 いて天より。人ん授與する。福のほりり。不
 飢不寒を極す。米と鹽と水の外。云
 用乃奢たり。米と鹽と水をえん。食とん。
 脾胃を實し。皮膚山満して。筋骨すくや

民乃物を貪取る人哀じもの千万人の
 千万人れをげさうれじ。悲乃をさういふもの
 かのほみふか上一人と。宰相の身は歸さるる
 なり。堯帝の舜よ告るる。四海困窮をば。
 天祿永終とのふい。峻宇彫牆此の二つは
 ありは亡ざるはなりともあり。茅茨きくは採
 椽けぐさすもあり。いんとして奢と。志免
 さばといふ事さう。是皆真加の富公づい
 らうして。天の罰を蒙り終るる也
 一康寧を。五福の第一とん。長生一富貴

疾しん病びやう災さい難なん多たの悪事あり。安あん穩ゑん
 静せい謐みなまじりて。憂ゆう苦くさうんん生せいくくけけくく也。
 富ふ貴きさうんんのあり。福ふくといひて。悠ゆう好こう徳とく乃の
 けさうんんのあり。善ぜん公こうこの。徳とく公こう
 福ふくい。人をさうんんの終しゆうむむぐ。康かう寧ねい乃の真ま
 加かしたる也
 一悠ゆう好こう徳とくを。五福の第一番とん。長生一富
 貴。この好徳乃真加と。全ぜんく守まもり行いふ
 べかり。仁義礼智孝弟忠信を。大事と
 して。善ぜんをたう。悪あくをなめ。さう結むす梅うめを

徳をこのひびくより。肝要の事なり。忘る
善く愛む。凶く吉み愛む也

一考終命を。五福の第五番とん。是は天
道より。うも得る眞加の長生と富と。康
寧と徳好徳と。四つは物をひくもくけど。
全くけくして。老老とをん。何の苦痛もな
く。枯木の風。ちひやくとく。幸とくもく
は。天命をけくして。五つの福をそとく眞加
をよく得るもくや。くまもく也。是は過
るる吉慶ハカレ也

一生附る眞加十ある。一生十よりよん。こ
さふちり。あましくして。十のつら。るる事ハ
きらま地なり。物の成とくふ事ハ。針外
く。麻づれくぐら事ハ。やま。草本
とく。物のけけ。さふゆるす尺あり。竹の子
たぐも一尺や二尺の間。つらとく事ハ。後ハ
雲をそとく。くわくべけきとく。まれのきこる
まけあり。うれよりよん。一すとのびと。人
と幼少なる。たのびと。後の天
く。とく。くべれとく。のびと。かどのひと後

は。一寸の位と。人乃年齢福祿延能み
 かるのさけあり。生得そのら。おまの外の高
 位高官多たのなるものあり。是も生得の
 眞加の内なり。生れつゝこの分を。ほく
 たり。大舜乃農民乃子にそ
 天子れ位よのちと給ふ。是も眞加のうられ
 命なり。う給ふに大孝をけく。大善
 されどは。生得乃福も。得るまは。け
 とも。福よりまよ好徳を。なまら給ふゆんたり。
 外のもの。又舜れおくまさればとて。みま

天子に。からんまふらわら。築紂の天子の位
 了。生れつゝこの人されも。大虐大悪な
 たされ給ふ。すらま化亡び失う給ふ。是
 をもつてこれに。眞加一人を。ほくして。上
 のちつゝ。成がた事也。下に。つゝか
 つゝ。やと事なり。まら。たのいん。大
 善行ひ。好徳の福を。たもらて。そまら
 くる。壽と富を。とら。んづさぬ。ゆめ
 づ。大體のを得。その。目。つゝ。と。方
 かり也。前よ。いぶ。飲食色乃。三欲貪

疾^{しやく}壽^{じゆう}不^ふ貳^に身^みと脩^{しゆう}て俟^{まち}と^し是^{こゝ}さ^らん^どれ
し^らつ^し身^みを^をね^らむ^もと^と。善^{ぜん}瓜^かを^をば^して^て天^{てん}母^ぼ
ほ^ろを^をく^くか^かい^い。何^{なに}の^の益^{えき}あ^らん^ども^もや^や耕^{かう}耘^んも
ま^まじ^じて^て穀^{こく}の^の實^{じつ}の^のり^りを^を待^{まち}が^がぶ^ぶく^く。多^たく^くし
く^くと^とぎ^ぎり^りて^て瓜^かと^とい^いふ^ふは^はも^もく^く。實^{じつ}の^のり^りは
天^{てん}よ^よゆ^ゆと^とて^てら^らぐ^ぐよ^よ。九^く情^{じゆう}の^の欲^{よく}か^かゆ^ゆ人^{にん}實^{じつ}の^のり
い^いじ^じと^とぢ^ぢり^り。い^いじ^じと^とぢ^ぢり^りも^も。善^{ぜん}の^のり^りを^をく^く。善^{ぜん}草^{そう}
ぎ^ぎり^り業^{ぎやう}を^をば^ばま^まじ^じり^り也^也。又^{また}地^ちよ^よま^まじ^じり^りる^る種^{しゆ}の^の
く^くん^んめ^めと^とら^らき^きん^んは^はな^なし^し。い^いた^たこ^こと^とま^まじ^じり^りぬ^ぬ
ら^らん^んぞ^ぞた^たこ^この^のぐ^ぐと^とく^く出^でづ^づ。あ^あき^きを^をの^のを^を。

す^すた^たく^くら^らい^い。あ^あき^き種^{しゆ}が^がく^く入^い出^でづ^づ。梅^{ばい}の^の實^{じつ}よ^よ
桃^{たう}の^の生^{せい}き^きん^ん瓜^かの^の生^{せい}き^きよ^よ。茄^か子^しは^はく^く入^い出^でづ^づ也^也。
考^{かう}ら^らう^うち^ちり^り業^{ぎやう}を^をく^く。天^{てん}命^{めい}を^をく^く。九^くま^まの^の
あ^あき^きゆ^ゆと^とは^はこ^この^のあ^あき^きゆ^ゆと^とい^いふ^ふ。あ^あき^きゆ^ゆと^とい^いふ^ふ。
く^くん^んで^で善^{ぜん}を^をく^く。い^いじ^じと^とぢ^ぢり^り。悪^{あく}を^をく^く。あ^あき^きゆ^ゆと^とい^いふ^ふ。
ち^ちり^り

一^いつ^つの^の身^みハ^ハ鹽^{えん}と^と水^{すい}と^とふ^ふて^てい^いの^のら^らを^を
中^{ちゆう}ち^ちよ^よふ^ふを^をく^く。若^{じやく}一^い汁^{じゆう}一^い菜^{さい}を^をく^く
ば^ば。結^{けつ}核^{かく}を^をく^く。考^{かう}ら^らう^う業^{ぎやう}と^と。有^{ゆう}が^がく^く存^{ぞん}ぞ^ぞて^て。
天^{てん}祿^{ろく}の^の冥^{めい}加^かを^をく^く。人^{にん}よ^よあ^あき^きゆ^ゆと^とい^いふ^ふ。

情をうつうつと。取てもくねくねも。念世若
根とつとつと。づらつと。あふふと。つ
は。うらうらもの。別して思と存と。怪い
れせざるなり。非常の功を賞し。非類乃
徳をあげ。貪と吝と。若くは。ふふと。一
し不思。や。い。感公と。もの也

盛存

